

## 平成 27 年度 学校教育自己診断結果 概要

- 対象 生徒（回収 108 人 △24）  
保護者（回収 18 人 △13）  
教職員（回収 22 人 ±0）

- 実施時期 平成 27 年 11 月

### 1. 生徒の自己診断結果

○肯定率の高い項目	肯定的意見（回答 3・4 の合計）（%）	H27	H26
2	この学校には、他の学校にない特色がある	91%	87%
30	定通就学奨励費、教科書給付、夜食給食援助制度、奨学金制度などの情報をよく知らせてくれる	90%	93%
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる	89%	89%
8	生徒の興味・関心・適正・進路に応じて選べる選択科目がある	88%	88%
21	学校生活の中で、あいさつができています	85%	85%

- ・生徒の小さな成功体験の場、自己肯定感の涵養の場とすることを目的とし、授業展開を実践している。毎時間教員が工夫をし、「わかる・できる」授業を行っていることがうかがわれる。
- ・登校時や下校指導時にあいさつをすることが定着し、4 月当初は返事ができなかった生徒も自らあいさつができるようになった。人間関係形成につなげていきたい。

○肯定率の低い項目		H27	H26
29	授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある	55%	55%
5	授業では、実験・観察・実習などの時間がある	57%	50%
6	授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある	62%	59%
14	ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある	62%	73%
13	保健室やかめカフェなどで、気軽に相談することができる人がいる	63%	58%

- ・生徒の理解をより深めるため、実習や実験、発表の場を設定するなどの生徒が主体となる授業に取り組む必要がある。
- ・生徒の将来像を確立させるため、進路指導に関する HR だけでなく、授業や総合的な学習の時間など効果的に活用し、教育活動全体で総合的・継続的に「考えさせる時間」を確保する必要がある。
- ・「かめカフェ」をより効果的に活用するため、生徒への周知方法や運営方法などについて、再検討する必要がある。

### 2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

#### ○得点の高い項目

##### 「学校に対する意識に対すること」

- 生徒：この学校には、他の学校にない特色がある。 《91%》
- 保護者：この学校には、他の学校にない独自の教育活動に取り組んでいる。 《88%》
- 教職員：この学校の教育活動には、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。 《100%》

##### 「教育活動に対すること」

- 生徒：学校は生徒の意見をよく聞いてくれる 《81%》
- 保護者：学校の生徒指導の方針に共感できる 《100%》
- 教職員：カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている 《95%》